

3

interview

持続可能な観光に関するインタビュー調査結果について

アンケートに回答していただいた観光事業者の中でも、先進的な取組をしている3事業者に詳細を聞きました。



ニセコアウトドアセンター
南重光さん

雄大なニセコの自然を守ってこそ

北海道に来る観光客にはさまざまな目的がありますが、ニセコに来る方の目的は自然の景観や自然のなかでの体験がほとんど。ニセコを選択してくださった観光客を失望させないような豊かな自然を維持していかねばと思っています。そうなれば、観光地としての魅力が増しますし、さらに多くの観光客から目的地として選ばれるでしょう。観光客

が増えれば、地域の商店などでも消費してもらえるので、地域の経済的にプラスになっていきます。

私たちは地域の自然環境を素材にして営利事業を行っているので、地域・環境・観光の関係が持続されていくことは大切なこと。コスト面とのバランスを考えて、続けていくことが大事なのだと思います。

移住してからSDGsへの意識が高まりました

ニセコ町に移住するまでSDGsについてはほとんど意識したことがなかったのですが、ニセコ町がSDGsを掲げているのを知り、興味を持つようになりました。今は、カフェと一緒に運営する妻とともに、環境に対する意識は高く、リサイクルできるものはリサイクルしたり、ものを簡単に捨てない、簡単に買わないなど実践しています。

欧米系のお客さまは特に環境問題への意識が高く、来店した際プラ製品の使用をやめるように要求される方がいらっしゃいます。お客様だけでなく、経営者の方々も外国人の方が環境に対しての意識が高い。私たちも「地域産物の活用」や「食品ロスの削減」など、飲食店でできる持続可能な取り組みをし、啓蒙活動も続けていきたいと考えています。



ニセコベースカフェ
奥田啓太さん

環境に負荷をかけない宿泊施設を増やしたい

オーガニック食品は「体にいい」という感覚しかありませんでしたが、欧州では「どの程度自然に負荷をかけているか」という見方で、供給までの道筋に焦点を当てて買い物をする人が多い。自分の住んでいたデンマークは小さな国なので、資源に関する考え方を一人ひとりがきちんと持っていて、100%自然エネルギーで発電するなど、国内で持

続的な生活ができています。一方で、同じ地球上にある日本が足を引っ張っているんじゃないか？ という気持ちも芽生えてきました。個人でできることは限られますが、ゼロ・エミッションの宿を目指しています。この町に環境に負荷をかけない宿泊施設が増えれば、何かが変わると考えています。



ニセコムルキーズ
西尾将裕さん

調査で分かった持続可能な観光を通じたSDGsへの貢献

1 小さなことからコツコツと	<ul style="list-style-type: none"> ●「もったいない」の気持ちで資源やエネルギーを節約 ●ゴミを拾う、花を植える、木を育てるなど日常の小さな取組
2 ちょっとした工夫でリデュース(削減)、リユース(再利用)、リサイクル(再資源化)	<ul style="list-style-type: none"> ●用具を洗う時には高圧洗浄機を使って水の節約 ●魚の骨は捨てずに出汁を取るなどの有効活用 ●食材の残滓(野菜の切れ端など)はコンポスト化して畑の肥料に
3 地元産物や地元の人々を活用してWin-Winな関係を	<ul style="list-style-type: none"> ●美味しく、フードマイレージ(食料の輸送による環境負荷)を減らせる地元の旬な産物を積極活用 ●自然、地域の歴史、生活文化に詳しい地元の人に地域の紹介をしてもらう
4 グローバルな視点からの貢献を	<ul style="list-style-type: none"> ●ゼロ・エミッションな宿泊施設など、海外の先進的な考え方を積極的に取り入れる

観光庁「日本版持続可能な観光ガイドラインモデル事業」アドバイザー 小林英俊(北海道大学 観光学高等研究センター 客員教授)

ニセコ町 持続可能な 観光に関する 調査レポート

ニセコ町は、令和2年度(2020年度)の観光庁「日本版持続可能な観光ガイドラインモデル事業」のモデル地区(全国5地区)に選定され、ガイドラインに沿って持続可能な観光地づくりを推進しています。



1

持続可能な観光とは？

「訪問客、業界、環境および訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在および将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する観光」(UNWTO 国連世界観光機関による定義)

簡単に説明すると

1 環境的に優しい

自然遺産や生物多様性の保全を図りつつ、観光開発において鍵となる環境資源を最適な形で活用する

2 経済成長ができる

観光によってその地域で、安定した雇用、収入を得ることができるように、そして貧困緩和に貢献する

3 社会文化的に好ましい

地域の伝統的な価値観を守り、異文化理解や異文化に対して寛容になる

T O P I C

「持続可能な観光地」として日本のトップランナーになりつつあるニセコ町

ニセコ町は、今までの施策(景観・環境、水資源、生ごみリサイクルなど)の実績が認められてSDGs未来都市に認定されています。主要産業は農業と観光業。農業が町の環境や景観を守り、観光業でその恩恵を受けますが、観光業は地元の産物を活用することで農業にお返しする。この主要産業がうまく連携することで地元の経済を循環させることが可能となります。町の環境や景観を守ることは、この町に住む人を気持ちよくするだけでなく、訪れた人の心も豊かにするのです。

Sustainable Top 100 Destinationsに選ばれました！

ニセコ町は、2020年10月に「Sustainable Top 100 Destinations (持続可能な観光地「トップ100」)」に選ばれました。これは、オランダの非営利団体「GREEN DESTINATIONS」が、より良い観光地づくりに努力している地域を毎年選出しているものです。国際的にも、ニセコ町が「持続可能な観光地」であることの認知度が高まっています。



<https://www.town.niseko.lg.jp/information/3097>

2 ニセコ町内の観光事業者の持続可能な取組

1位	ごみ削減	63.5%	6位	使い捨てプラスチック削減	43.8%
2位	仕入れ等における地域産物の活用	58.3%	7位	資源のリデュース、リユース、リサイクル	37.5%
3位	省エネ(断熱、自然エネルギー活用、省エネ型ライトなど)	56.3%	8位	多言語対応(施設内看板やメニューの多言語表記)	34.4%
4位	食品ロスの削減	56.3%	9位	地域の自然・景観・歴史・文化等の継承	31.3%
5位	節水	51.0%	10位	地域内の雇用促進	28.1%

解説 最も多い回答は63.5%の「ごみ削減」ですが、2位「仕入れ等における地域産物の活用」が入っているのはニセコ町の特徴です。町の主要産業である農業と観光業が連携することで地域の価値を生み出し地域経済を循環させます。

3 ニセコ町内の観光事業者が利用客と一緒にいる取組

利用客に呼びかけている取組はさまざま。各場面での取組を紹介します。



旅行中のあらゆる場面で

- 地域の自然・景観・歴史・文化等への理解や敬意を持つこと
- ゴミの持ち帰りや分別
- マイバックの持参



宿泊の場面で

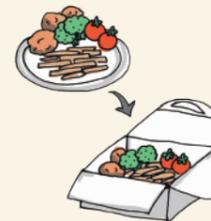
- 節電
- 節水
- 連泊の際の清掃やリネン交換不要の意思表示
- アメニティー類の持参

NO!



野外でのアクティビティの場面で

- 環境保護のマナーの順守(野生植物を採取したり、野生動物に餌を与えたりしない等)



飲食の場面で

- フードロスの削減(残り物のテイクアウト等)
- マイ箸・マイカップ等の持参



移動の場面で

- エコドライブ
- 公共交通機関の利用
- レンタサイクルの利用

4 ニセコ町内の観光事業者が地域や住民と一緒にいる取組

ニセコ町が持続可能な観光地であるために、観光事業に関わる方々は、地域への貢献としてさまざまな活動を行っています。



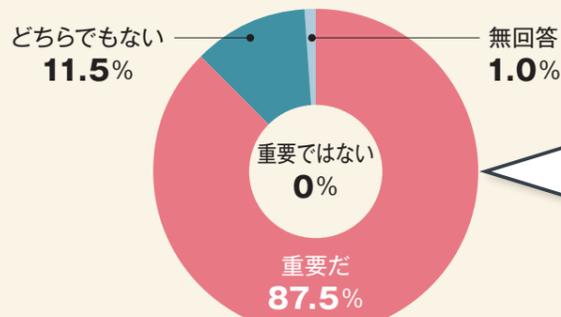
- 清掃活動(クリーンアップ)
- 街角の花植え活動
- 町民に自社の事業を知ってもらうための活動
- 地域支援のための募金
- 学校等への出張授業

2

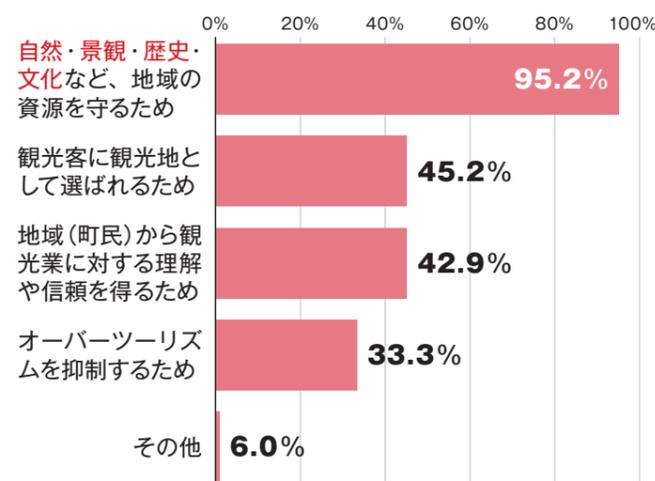
持続可能な観光に関するアンケート調査結果について

ニセコ町内の観光事業者(アクティビティ、宿泊、飲食、土産・物産、交通、観光施設等)200社を対象に、持続可能な観光についての意識や取り組み状況についてアンケートをし、96社にご回答いただきました。観光事業者の皆様の意識と、具体的な取組を紹介します。

1 ニセコ町内の観光事業者の8割以上が「持続可能な取組を重要」と認識



重要だと思う理由



解説 重要な理由として、最も多く挙げられたのが「地域の資源を守るため」が、回答者の9割以上を占めました。自然が重要な観光資源ということがわかります。

解説 約9割(84件)の回答者が観光分野における持続可能な取り組みを「重要だ」としており、「重要ではない」という回答者はいませんでした。ほとんどの事業者が持続可能な取組を重要視していると言えます。